

# きめ細かい電流・温度・湿度監視で データセンターサービスの質を向上

## フロア温度の偏りが一目でわかり、空調の無駄の削減に

### 測定の手間を省き 危険を伴う電流測定を改善

導入前は、電流・温度・湿度測定のほとんどを手動で行っていました。分電盤を開けての電流測定には危険が伴い、ラック内の温度測定には手間がかかります。そこでデータセンターの安全かつ安定稼働の為に、サーバールーム内に人が入ることなく、監視ルームで常時監視が可能なシステムを導入することになりました。

### 決め手は「使いやすさ」 オペレーションに沿ったシステムを希望

まずは複数社の監視システムを選定し、実際に試用してみた上で、最終的に日本ノーベルのiDCNaviを導入することにしました。

iDCNaviに決めた大きなポイントは、2つ。1つ目は、画像が鮮明で使いやすいシステムであったこと。フロアの温度分布をサーモグラフィのように表示する温度分布図など、画面表示に他社との違いがありました。

2つ目は日本ノーベルはソフトウェアベンダーなので、カスタマイズに柔軟に対応できるということ。特にデータセンターの管理には、担当によって使う画面もオペレーションも異なるため、誰もが使いやすいシステムになるよう、カスタマイズをお願いしました。例えば「フロア表示画面で分電盤の所をクリックする

と、分電盤の絵が出てブレーカー毎の値が出る」などオペレーションに直結する機能はこだわりました。

### 「温度が見える！」 きめ細かい測定で省エネにも効果

導入後は「手動で電流を測定する必要がなくなり、分電盤を開けなくても場所や数値が確認できるため危険な作業がなくなった。」「サーバールームの温度の偏りが一目で解るので、空調の調節で温度のムラが少なくなり、省エネに繋がった。」といった効果が見られるようになりました。



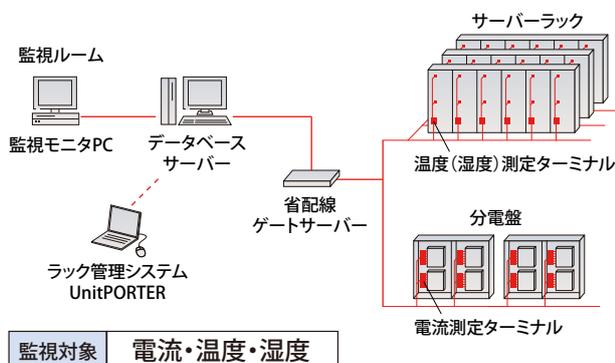
▲フロアの温度分布表示

フロア内の温度が高い部分が赤く表示され、リアルタイムでの温度分布がわかる。時間を縮めたアニメーション表示もでき、時間経過による変化もみることができる。

### 今後はWebを活用し 一般ユーザーへの情報提供も検討

今後は、監視拠点を一箇所にし、複数拠点を一括で監視できるように仕組みを構築していく予定です。またUnitPORTERと連携することで、お客様がWEBでラック内の機材管理を確認できるようなサービスの導入を、検討していきたいと考えています。

#### ●システム構築



2拠点あるデータセンターのそれぞれで計測・監視を行っています。電流と温度の他に湿度の監視も行っています。サーバールームの分電盤とサーバールームに計測用センサーを取り付け、収集したデータを監視ルームのモニタに表示します。機器の管理にはラック管理システムUnitPORTERの導入を予定しています。

#### User Profile



エネルギア・コミュニケーションズ様は中国電力グループで、広島に本社を構え、情報と通信の2つを柱に事業を展開されています。FTTHインターネット接続サービス、ネットワークセキュリティサービス、データセンターサービスなど、インフラ系の各種サービスに加え、情報システムの構築・運用・保守サービスを通じて、中国地方の社会基盤を支えられています。

2010年、2拠点のデータセンターに、当社のデータセンター環境監視システム「iDCNavi」を導入していただきました。その経緯と導入効果についてお話を伺いました。

#### 今回導入したシステム

### iDCNavi

#### データセンター環境監視システム

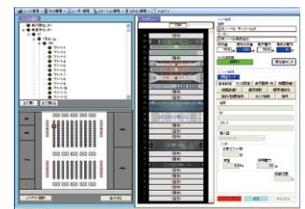
データセンターの温度・電流などを計測・監視するシステムです。多点の計測データを一括でリアルタイムに監視することで、異常の早期発見、原因特定を行うことができます。

#### 導入予定システム

### UnitPORTER

#### サーバールック管理システム

サーバールック内の機器情報を一元化する、ラック管理ソフトウェアです。ラックに配置された機器の様子を「見える化」し、デバイス管理業務の効率化をサポートします。



▲ラック内の機材を管理